姶良歴史ボランティア協会広報誌第 10 号　　発行日　平成 22 年 6 月 10 日(木)

あいらの歴史と物語

発行責任者：姶良歴史ボランティア協会
会　長　橘 木 雅 晴
編　集　者：広報部長　竹之下　洲　一

連絡先：〒899-5421 鹿児島県姶良市東餅田 498　　姶良市歴史民俗資料館 TEL 0995(65)1553

姶良市の考古学

歴史民俗資料館学芸員
深　野　信　之

3 月 23 日に誕生した「姶良市」の総面積は 231.32km² で、現在確認されている遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の数は 234 遺跡（旧姶良町 78 遺跡、旧加治木町 93 遺跡、旧蒲生町 63 遺跡）です。今回は遺跡分布図〔下図〕から読み取れる特徴を時代別に紹介します。

遺跡分布からみる姶良市の特徴

1．時期により立地の異なる縄文遺跡

市内最古の遺跡は建昌城跡の縄文時代草創期（約 13000 年前）集落跡で、これより古い旧石器時代の遺跡はまだ確認されていません。しかし、まだ発掘調査が及んでいない山間部にさらに古い遺跡がある可能性が考えられます。県全体の傾向と同じように、早期（約 7300 年前）以前の遺跡は山間部に位置し、前期以降になると低地部に遺跡が進出します。

2．別府川中流域に集中する古墳～平安時代遺跡

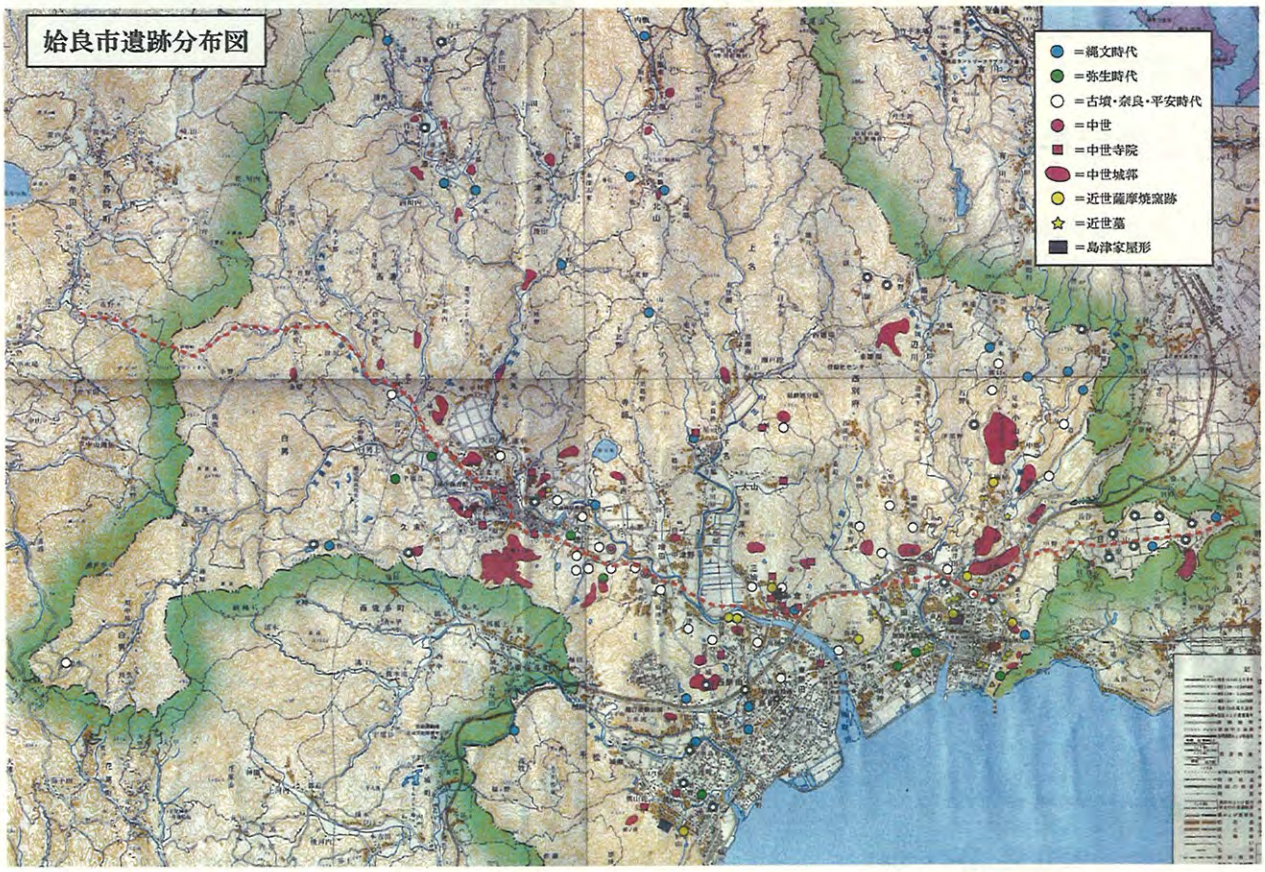
役所・官営工房・集落と思われる遺跡が増加する時代で、姶良市域がいち早く開発されたことが考えられます。遺跡の分布から古代官道ルート（赤点線）が想定でき、ルート上に位置する加治木町木田の市頭（いちがしら）遺跡群は今年度も発掘調査が行われていて、古代から中世にかけての新たな成果が期待されます。

3．武士どもの夢の跡が残る中世遺跡

中世（特に戦国期）に築かれた多数の山城は、長期間にわたり諸氏の争奪の場であったことを物語ります。中世末～近世初頭には島津義弘公が帖佐・重富・加治木にそれぞれ館を構え、活躍しました。

4．近世薩摩焼の一大生産地

義弘の御庭焼窯（宇都・御里）から陶器窯（山元・元立院・小松・龍門司）・磁器窯（弥勒・重富皿山・日木山皿山）に至るまで薩摩焼の窯が多く造られ、苗代川（日置市東市来町）とならび、薩摩焼を考える上で重要な地域といえます。



「歩き・み・ふれる歴史の道　白銀坂」特集
（研修発表者報告）

5月8日（土）実施

重富小学校正門(登録文化財)

西　田　　實

重富小学校の正門は、廃藩置県以降に設立された旧鹿児島県庁の正門でありました。

重富小学校正門

いつ、どんなわけでこの学校に移設されたかは分かりません。しかし、鹿児島市の中央公園の一角にあった県庁は、大正14年に、現かごしま県民交流センター(前の県庁跡)の地に新設されましたので、そのころにもらい受けて、移設されたのではないでしょうか。

その正門が、島津義弘公ゆかりの平松城跡に建設された重富小学校の校門となり、その造形美といい、歴史的背景といい文化的価値が高いということから、平成21年に文化庁から「登録有形文化財」として認められました。

浦町と愛宕神社

竹之内　　和　仁

関ヶ原から百有余年、武士の魂である刀も飾りとなり、人々の生活にも少し余裕がでてきた時代に越前島津家は再興されました。それとともに、今までの古い町割を一新し、平松城を中心に侍屋敷を置き、浦町を附属させる町割に造り直しています。

重富麓集落を歩く

浦町は、海運業ならびに漁業をして暮らしている人々の集落のことで、重富では思川河口付近の港を中心に作られました。町の中心では白銀坂からの街道と吉田からの街道が交叉しており、交通の要所にもなっています。江戸時代には六斎市と呼ばれる市もたち、にぎやかだったのではと往時が偲(しの)ばれます。

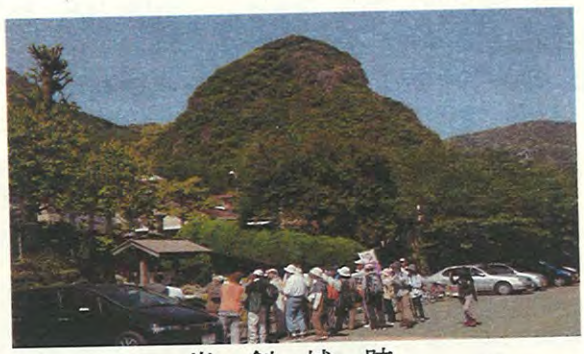
現在も重富駅周辺には、江戸時代の町割が残っており、散策に最適です。

愛宕神社は白銀坂の登り口にあります。越前島津家が再興されて七年ほど経(た)ってから造られています。当初は軍神として、後には火の神として祭られています。

社殿は、暴風雨により再三破壊され、明治以降は石祠が残るのみです。毎年七月初旬には六月灯が催され、初夏の夕べ一時のにぎわいを見せます。

越前島津家と重富郷

佐土原　　保　子



岩　剣　城　跡

越前島津家は、島津宗家初代忠久の二男忠綱を祖とします。父忠久が越前の国（福井県）の守護職をしていた時、守護代に任ぜられた鎌倉時代の名家でした。戦国時代に15代忠長は播磨の国（兵庫県姫路市）の朝日山の合戦にて戦死し、越前島津家は途絶えてしまいました。それから200年後、当時の島津の藩主22代継豊は弟忠紀を越前島津家16代として領地1万石と鹿児島城下に宅地4、873坪を与え、跡を継がせました。

領地は、帖佐郷の脇元・平松・春花・船津・吉田郷の触田の5か村とし、重富郷と名づけました。郷名は、越前国久安保重富の地名に因んだといわれております。

重富には越前島津家の菩提寺紹隆寺が造られましたが、明治の廃仏毀釈により、現在は歴代当主とその家族33基の墓地になっています。

白銀坂ウォーキング

濱　口　純　則

白銀坂は昔の薩摩国と大隅国を結ぶ重要な幹線道路で、生活道路でもあり、歴史性を秘めた自然石の石畳が残っている古道です。坂上までほとんど直射日光に照らされることなく、長い時間散索が楽しめるウォーキングコースの一つです。大切に楽しみたいものです。

今回は天候に恵まれ、前日の雨で桜島の灰も中国の黄砂も洗われ、5 月の風薫る清々(すがすが)しい気持ちでした。総勢 50 名弱。出発から重富小学校までの間、早くも前後の開きが大きくなってきました。車の往来の激しい所、信号の所など注意を払い、幟を持って付いて行きました。

坂を登り降りしながらいつも思うことは。昔の人は強かったなあ、草鞋(ぞうり)は何足持って行ったのか、殿様は実際に歩いてみたか、トイレはどうしたのか、夜はどのようにすごしたかとか、いろいろと思いを馳(は)せるのも楽しいことです。

牟礼ヶ岡無線中継所

坂を降りるとき 2、3 人の方が体調をこわされましたが、人生いろいろと楽しむためにも足・腰を鍛えておくことも大切だと思いました。

城跡見学会に参加して(2 月 28 日)

濱　口　純　則

暗い空を見上げながら、皆それぞれ車に分乗してまず岩剣城跡に向かいました。見上げれば名前の通り険しい城跡です。山道は上の方では階段・手摺(ですり)などが整備されて登り易(やす)くなっています。山頂で城の機能や構造について説明を受け、景観を楽しみました。次は建昌城跡です。

建　昌　城　跡

城跡は公園化が着々と進められています。最新のトイレなどは4月から使用可能となるそうです。もし 18 代島津家久公の本城に建昌城がなっていたら・・・。新たに胡麻ケ城の説明もあり、なお夢が膨らみます。遅い昼食を歴民館で済ませ山田城跡に向かいます。

山田城跡も地形を巧みに利用して迷路のような空堀が造られた山城です。大手口より入り、二ノ瀬戸・三ノ瀬戸の切通しは、頭上より矢・石が飛んできそうな所です。皆ロープの世話になり城跡の頂上にたどり着き、城の構造や機能、激戦の説明などを聞きました。何度通ってもおもしろい所で、城跡探訪は冬場が良いです。

歴民館に帰り着くまで雨も降らず、楽しい城跡の探訪でした。

北山下地区史跡巡りウォーキング

恒　吉　一　洋

3 月 20 日(土)に、北山下(しも)地区の「森林＆史跡巡りウォーキング」がありました。

A コース(約 7 km・27 人)、B コース(約 5 km・33 人)の二手に分かれ午前 9 時に出発しました。

北山地区馬場の牛馬神と火の神・小川邸裏の石祠・下城の若宮神社・七ッ島・北野天神とメダカ池・刑部塚・梅北神社など(A コース)、史跡を巡りながらのウォーキングの始まりです。

みずみずしい新緑に囲まれた美しい自然の中での史跡巡りは大変気持ちよく、約 3 時間の行程がとても短く感じられました。

途中 2 か所の休憩所では、地元の方々の心づくしのお茶や漬け物、手作りのだんごなど、ありがたいおもてなしを受け、英気を養いました。

12 時過ぎにはゴールにたどり着き、さっそくおにぎりと暖かい豚汁をいただきました。

その後、地元産のお米やいちご、タケノコや大根などが当たる抽選会や餅つき大会などの催しがあり、大変にぎわいました。

帰りは、抽選で当てた品々とつきたてのお餅をいただき、皆大満足で帰路に着きました。

竹林の中での散策

北山下地区の皆様方が、村おこしのために全員で協力し活動されているお姿に感動しました。心から御礼申し上げます。

姶良市内の史跡④（蒲生町）

ヨクシババ（永興寺馬場）

吉　田　　しげ子

蒲生氏の旧菩提所であった「永興寺（ようこうじ）」は、12代領主清寛の叔父にあたる量外聖寿和尚によって開山されました。

麓と呼ばれる武士集落の町割の中に、「永興寺馬場」通りとあり、その一帯が寺院であったろうと思われますが、明治の廃仏毀釈により跡形もなく、現在は蒲生小学校になっています。

『三国名勝図会』によってその様子を知ることができます。絵図の客殿に向かって登る階段と思われる石段が、唯一当時を偲（しの）ばせるものとして残っており、釣鐘も現在蒲生総合支所屋上に保管されています。

永興寺(『三国名勝図会』)

清寛の墓は、蒲生家代々の菩提寺であった法寿寺跡の「蒲生どん墓」にあります。

姶　卿（あいきょう）

白銀坂での嬉しい出来事

橘　木　　雅　晴

姶良市誕生の前日、山桜の咲く白銀坂で知人夫婦は、下山途中に上着を紛失し落胆している鹿児島のご夫婦に出会いました。知人夫婦は、その奥様の上着を第三休憩所付近で発見し、無事に届けました。愛着のある上着が戻ってきたご夫婦は感激し、断る知人に強引に謝礼金を差し出されました。困惑した知人は一旦受け取り、当協会の活動資金にしてほしいと寄付をしていただきました。

六反田・七反田模様

松　元　　淳　一

青雲会病院の辺りは、六反田・七反田(姶良町小字集成図)である。ここに今、「青雲タウン構想」の有料老人ホームが建設されつつある。大きな街並みの出現が予定されている。小鮒釣りなどここで昔遊んだことをなつかしく思い出す。変化は時の流れ。やがて完成の新街並みを想像し、期待しつつ！

ボランティアガイド実施報告

3月 1日 9:00～12:00	西姶良小学校家庭教育学級 御一行６名様
案　内　者	橘木雅晴・竹之内和仁
コ　ー　ス	帖佐地頭仮屋跡→総禅寺墓地 →米山薬師→天福寺磨崖仏 →帖佐八幡神社・平山城跡
4月 11 日 9:30～16:30	かごしまボランティアガイド 薩摩義士コース御一行７名様
案　内　者	学芸員 下鶴弘、 藤崎幸雄・恒吉一洋
コ　ー　ス	姶良市歴史民俗資料館内見学 →重富地区（町割・白金酒造・白銀坂・平松城・越前島津家墓地など）→帖佐地区（建昌城・宮田ヶ岡窯跡・義弘公居館など）→山田地区（梅北神社・凱旋門・西田の田の神など）
5月 15 日 10:00～15:30	山形屋ｻﾞ・ﾉｰｽﾌｪｲｽ　白銀坂 ﾄﾚｯｷﾝｸﾞ体験ﾂｱｰ御一行 18 名様
案　内　者	濱口純則・竹之内和仁
コ　ー　ス	白銀坂駐車場→白銀坂登山 →第２休憩所→ＪＴの森 →第３休憩所→布引の滝 →愛宕神社→駐車場、解散

歴史用語解説

（竹之下　　洲　一）

『六斎市』　中世後期以降、月六回開かれた定期市のこと。それまでの月三回の三斎市をより発展させ、市日は一と六、二と七などの組み合わせで、五日ごとに開催された。

姶良では、早くから別府川沿いの町に十日町・八日町などで市が開かれている。江戸時代になり、延享４年(1747)脇元には六斎市が許可されたことが、『列朝制度』に記録されている。

編集後記

第10号の内容は、「歩き・み・ふれる歴史の道　白銀坂」（５月８日実施）での案内が中心です。当日はハイキングに絶好の天気で、参加者のすばらしい笑顔が印象的でした。

歴史民俗資料館学芸員の深野先生に私たちへの講座の内容、「姶良市の考古学」を簡潔に分かりやすくまとめていただきました。

３月の合併を機に、今年度は特に加治木町の史跡が案内できるように研修し、広報誌でも報告していきたいと考えています。